

高田 本山 だより

恩徳広大釈迦如来

韋提夫人に勅してぞ

光台現国のそのなかに

安樂世界をえらばしむ

浄土和讃(観経意)一首目

128

連載第6回

『なもあみだぶつ』を
聞くということ

栗原 廣海

一、不退のくらい

前回の最後に、「真実
信心をいただいて念仏し
ているすがたは、そのま
ま浄土に生まれさせてい
ただき、仏にならせてい
ただくことが間違はなく
約束されているすがた、
すなわち『不退のくらい』
につかせていただしてい
るすがたにほかなりませ
ん」と言いました。今回
はこの「不退のくらい」
について考えてみましょ
う。

「不退のくらい」の「不
退」は、「不退転」とも
言います。この言葉は日

常生活のなかで結構目に
する言葉ですね。「不退
転の決意で臨む」という
のがもっとも多い使われ
方かと思います。志を堅
くもって、退かないこと、
あとへ引かないことで
す。仏教語が日常生活に
深く溶け込んでいる例は
たくさんありますが、こ
の言葉もそのうちの一つ
です。なかには、日常生
活に溶け込むことによっ
て全く意味が変わってし
まったものもたくさんあ
りますが、この言葉はそ
うではありません。「不

退のくらい」の「不退」も意味は同じで、退かないこと、後退しないことです。

では何から退かないのか、後退しないのかと言えば、「私どもがさとりを得て仏になる」ということから退かない、後退しないのです。このように言うことは簡単ですが、仏になることから後退しないというのは、大変なことです。私たちは、目・耳・鼻・舌・皮膚という五官を通して外界に触れながら毎日生活しています。ものを見、聞き、嗅ぎ、味わい、皮膚で触れるという外界との接触とおしてさまざまな欲望を起し、いかりやねたみ、そねみの心を起して、それがおさまることはありません。心はいつも激しく波立ち、動揺し、人との対立を起して傷つけることもしばしばです。静

まることのないこのような心が、もののありのままを見る智慧のさまたげとなって偏見を生じ、まことの徳を積むことを邪魔しているのです。このような私どものありようを「凡夫^{ぼんぷ}」と言うのだと、親鸞聖人はお教えくださっています。このような凡夫が、まことの徳を積み、智慧をみがいて仏への道を退転することなく歩むということは、実際、不可能と言わなければなりません。

ではなぜこのような私ども凡夫が、真実信心をいただいて念仏すれば「不退のくらい」につかせていただけるのでしょうか。

阿弥陀如来は、私ども凡夫のありのままのすがたをすみずみまでご覧になり、深い悲しみの心で、「そのままよい。自分で

仏への道を歩めないなら、私が必ず仏にする。そのために必要な智慧や徳は、すべて名号^{みょうごう}（な

もあみだぶつ）に込めて届けるから安心して受け取れ」とよびかけてくださっています。そのよび声を、信心をいただいている人は聞き、受け入れて、如来の智慧やお徳を頂戴しているのです。如来が与えてくださっている、仏になるために必要なすべてを、信心の人は受け取っているのです。だから如来のおぼしめしにかなった人は、「不退のくらい」につかせていただけるのです。

一、「不退のくらい」の和讃

ご存じの方は多いと思います
が、この「不退のくらい」は、
私たちが普段お勤めする「和讃」

（『浄土高僧和讃』「龍樹菩薩」第六首）の最初に出てくる言葉ですね。

不退^{ふたい}のくらいすみやかに

えんとおもわんひとはみな

恭敬^{くぎやう}の心に執持^{しゅうぢ}して

弥陀^{みだ}の名号^{みょうごう}称すべし

「浄土に生まれて仏にならせていただくことが約束され、そこから退くことがない位を早く得ようと思う人はみな、わが身をつつしみ仏を敬う心をしっかりとって弥陀の名号（なもあみだぶつ）を称えるべきである」と言われています。

如来の尊いおぼしめしをおもんみなながら、深い恩徳を謝しつつお勤めしたいものです。

（高田派鑑学・誓元寺住職）

聖徳太子シリーズ①

「聖徳太子とは？」



誰もが知る超有名人「聖徳太子（西暦五七四年～六二二年）」。壹万円札に描かれたこともある日本を代表する偉人です。

「十七条の憲法を制定」「遣隋使の派遣」「佛教興隆」「三経義疏の著述」と、数々の偉業をはじめ、「十人の話を聞き分ける」など、聡明さを伺える逸話が伝えられております。そして、親鸞聖人もご和讃へ「日本国帰命聖徳太子」と、日本における佛教興隆の功績を讃えられ、聖徳太子へ帰依を示されま

した。聖徳太子を仰がれたご和讃（専修寺蔵『皇太子聖徳奉讃』『大日本国粟散王聖徳太子奉讃』）は約二〇〇首あり、これはご和讃全体の約四割にもおよびます。このことから聖人の聖徳太子に対する強い想いが伺えます。

そんな聖徳太子でありますが、「実は存在しなかった」と、信じがたい学説がとなえられ、教科書にも影響を及ぼすほどとなりました。正確には、聖徳太子が行ったとされる膨大な偉業を、改めて歴史に照らし合わせると、一人の人物が成し遂げるには相違があることが論点のようです。こうした研究は歴史を紐解くうえ

で非常に大切なことです。

しかし、佛教の立場からすれば、最も注目すべきことは「いたか・いなかったか」ではなく、今ここに佛教があるということ。真実に目を向けることではないでしょうか。弘め伝えてくださった、長い歴史の結果として、遇いがたくして今遇うことを得たものこそが佛教であり、念佛のみ教えです。

それには、日本の佛教興隆が不可欠であり、そこにご尽力くださった師主方の「はたらき」を代表する存在を聖徳太子と受けとめたいのです。また、私をみ教えへと導いていただいた、数え切れぬご先祖様方がいることも忘れてはなりません。南無阿弥陀佛と称えるところに、念佛に生きた方々に今も支えられていること

を思い起こさせられるのです。

聖徳太子により、日本に佛教が興隆して約一四〇〇年。決して終わらせてはならない歴史が今ここにあります。その歴史を「聖徳太子シリーズ」と題し、今回を第一回と致しまして全七回に亘り、皆様と共に尋ねさせていきたいと思います。

（教学院第三部会）

井
筒

法衣・仏具製造及び販売

井筒法衣店

代表取締役社長 今岡規代

●本社

600-8468

京都市下京区堀川通

新花屋町角（西本願寺前）

Tel 075-351-1234

Fax 0120-075-720

075-341-7905

●東京店

160-0008

東京都新宿区四谷

三栄町十四番地二一

Tel 03-3358-1500

Fax 03-3359-8902

12UTSU

京

都

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）

電話 (075) 371-0854・8181～2番

FAX (075) 344-2701番

振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年

松井建設株式会社

取締役社長 松井隆弘

執行役員支店長 佐野祥治

本社 東京都中央区新川一丁目17番22号

名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号

☎03-3553-1150

☎052-249-4771

晨朝
じん
ちょう

日中
にっ
ちゅう

速夜
たい
や

初夜
しょ
や

大講堂
だい
こう
どう

報恩講説教一覽表（令和四年一月）

1月9日 (日)	12:30 速夜勤行・説教① 16:30 初夜勤行・説教②
1月10日 (月)	07:00 晨朝勤行・説教③ 10:30 日中勤行・説教④ 10:30 お七夜はたちの集い（受付；宗務院） 12:30 大講堂説教⑤ 13:00 お七夜高田青年会 14:00 速夜勤行・説教⑥ 16:30 初夜勤行・説教⑦
1月11日 (火)	07:00 晨朝勤行・説教⑧ 10:30 日中勤行・説教⑨ 12:30 大講堂説教⑩ 13:00 お七夜高田青年会 14:00 速夜勤行・説教⑪ 16:30 初夜勤行・説教⑫
1月12日 (水)	07:00 晨朝勤行・説教⑬ 09:00 高田学苑参詣（御影堂） 10:30 日中勤行・説教⑭ 10:30 高田保育園参詣 12:15 お七夜婦人連合会（御影堂） 12:30 大講堂説教⑮ 14:00 速夜勤行・説教⑯ 16:30 初夜勤行・説教⑰
1月13日 (木)	07:00 晨朝勤行・説教⑱ 09:00 特別講演（如来堂）⑲ 10:30 日中勤行・説教⑳ 12:30 大講堂説教㉑ 13:40 お七夜坊守会（受付；宗務院） 14:00 速夜勤行・説教㉒ 16:30 初夜勤行・説教㉓
1月14日 (金)	07:00 晨朝勤行・説教㉔ 09:00 特別講演（如来堂）㉕ 10:30 日中勤行・説教㉖ 12:30 大講堂説教㉗ 14:00 速夜勤行・説教㉘ 16:30 初夜勤行・説教㉙
1月15日 (土)	07:00 晨朝勤行・説教㉚ 10:30 日中勤行・御親教・復演㉛ 12:30 大講堂説教㉜ 14:00 速夜勤行・説教㉝ 16:30 初夜勤行・説教㉞ 16:30 お七夜婦人連合会初夜参詣（御影堂） 23:00 後夜
1月16日 (日)	07:00 晨朝勤行・説教㉟ 09:00 御参廟 10:30 日中勤行・説教㊱ 12:30 大講堂説教㊲

2022年 お七夜行事予定

報恩講（お七夜）は毎年一月九日から十六日の七夜八日にかけて厳修されます。
弥陀のよび声「なもあみだぶつ」を聞いてゆこうという気持ちで
令和4年の報恩講をご一緒にお迎えいたしましょう。

中止・延期のお知らせ

お七夜子ども大会	中止
責任役員大会	延期
他山ご焼香	中止
通夜念仏	中止
白塚通夜講（ししこ念仏）	中止

高田本山御用達
三重県仏教会御推薦
石碑
記念碑
燈籠
高級御影石専門店
御影石材株式会社
〈石に御用の方は〉
☎0120-142540
本店 津市広明町（影見寺門前）
☎059-224-1700（代）

日本古来より伝わる土壁の家づくりと伝統建築の保護・再生
土壁・漆喰・竈の伝統技術を守り継承していきます

土築舎
Sochikusya Co., Ltd.

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35
TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627
E-mail : souchikusha@gmail.com URL : https://tutikabe.net/

16日(日)	15日(土)	14日(金)	13日(木)	12日(水)	11日(火)	10日(月祝)	9日(日)	
③⑤ 長谷部 行雄 津市最勝寺住職 ■ 講題 報恩講を迎えて	③① 藤田 正知 津市延命寺衆徒 ■ 講題 仏恩師恩をおもう	②④ 安藤 章仁 岡崎市妙源寺衆徒 ■ 講題 わじゅんの八耳 和順ノ八耳	①⑧ 水沼 碧水 津市玉保院衆徒 ■ 講題 努力と他力	①③ 藤井 徳雄 鈴鹿市了性寺住職 ■ 講題 よもやよもやの 娑婆世界に遊ぶ	⑧ 生桑 崇等 津市来照寺衆徒 ■ 講題 外儀のすがた	③ 岡 知道 四日市市立法寺住職 ■ 講題 おかげさまという悲しみ		(午前七時)
③⑥ 真昌 智海 鈴鹿市真念寺前住職 ■ 講題 如来大悲ノ恩徳ハ 身ヲ粉ニシテモ報スベシ	③② 御親教 ごしん きょう ■ 講題 諸行無常	②⑥ 田中 明誠 鈴鹿市欣念寺住職 ■ 講題 聞いて広がる世界	②① 大河戸 悟道 豊橋市正太寺住職 ■ 講題 重誓名声聞十方	①④ 藤浦 弘導 鈴鹿市浄国寺住職 ■ 講題 地獄、極楽、温泉巡り	⑨ 金森 顕宏 大野市専福寺住職 ■ 講題 我行精進 忍終不悔(歎仏偈) 自力と他力の違い	④ 真置 信海 松阪市法性寺衆徒 ■ 講題 南無阿弥陀仏を称うれば		(午前十時三十分)
	③③ 鈴木 紀生 津市浄福寺住職 ■ 講題 諸行無常	②⑧ 花山 光瑞 明和町迎接寺住職 ■ 講題 大悲の声	②② 戸田 恵信 岡崎市浄泉寺住職 ■ 講題 まことのみむね	①⑥ 隆 妙灝 四日市市浄福寺住職 ■ 講題 本願力のめぐみゆえ	①① 浦井 宗司 鈴鹿市深禪寺住職 ■ 講題 弥陀の本願信ずべし	⑥ 若林 妙百 津市採蓮寺住職 ■ 講題 賜りたるいのちの なかにある私	① 田中 唯聴 鈴鹿市欣念寺衆徒 ■ 講題 聞其名号	※九日のみ(午後十二時三十分) (午後二時)
	③④ 梅林 久高 鈴鹿市正念寺住職 ■ 講題 つねにわが身をてらすなり	②⑨ 千草 篤昭 津市善休寺住職 ■ 講題 カナシキカナヤコノゴロノ	②③ 里榮 秀教 鈴鹿市法林寺住職 ■ 講題 阿弥陀様の声を 聞きましよう	①⑦ 芳川 賢史 津市報恩寺住職 ■ 講題 利他と恩	①② 鷲山 了悟 津市真楽寺住職 ■ 講題 他力本願をいただくこと	⑦ 水谷 忍英 鈴鹿市本照寺住職 ■ 講題 明日ありと思つ心	② 佐藤 弘道 津市浄徳寺副住職 ■ 講題 分かっちゃいるけど、 やめられねえ	(午後四時三十分)
③⑦ 安田 真源 京都市安立寺住職 ■ 講題 「無碍の光明」無自覚な私	③② 藤澤 眞純 松阪市明照寺住職 ■ 講題 わたしにとつての 救いとは	②⑦ 中村 宜成 四日市市光輪寺住職 ■ 講題 源信僧都と横川の僧都	②① 島 義厚 大阪市聖賢寺住職 ■ 講題 報謝の称名	①⑤ 栗廻 隆興 四日市市誓覚寺住職 ■ 講題 心は蛇蝎のごとくなり	①① 安藤 純海 岡崎市連珠寺住職 ■ 講題 変わるもの 変わらないもの	⑤ 松田 信慶 和歌山市崇賢寺住職 ■ 講題 ご縁に生かされて		(十一時三十分)

15日(土)

③①

栗原 廣海

四日市市
誓元寺住職 鑑学

復 演
(御影堂御親教後)

14日(金)

②⑤

北島 恒陽

四日市市
正泉寺住職 擬講

13日(木)

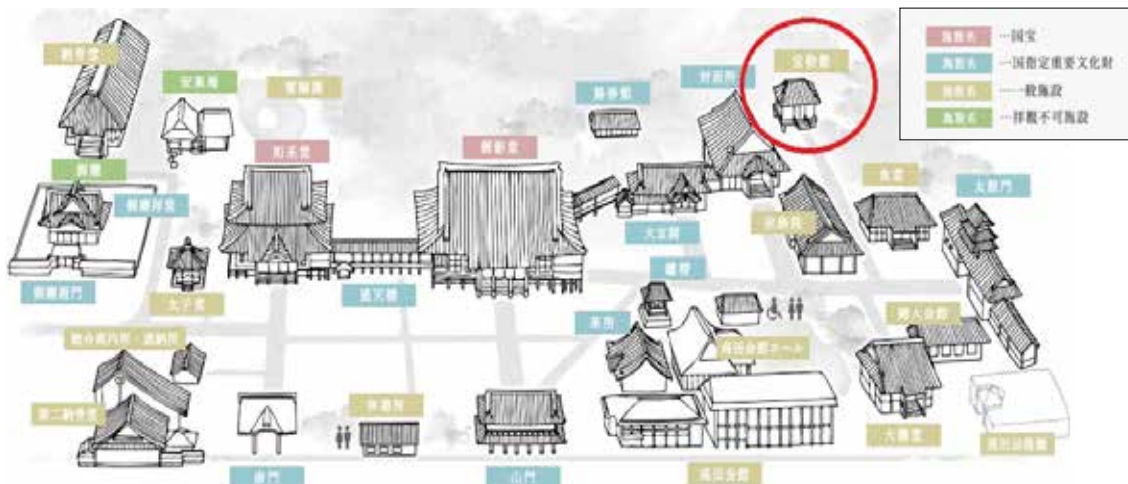
①⑨

松山 智道

鈴鹿市
随願寺住職 輔講

特別講演
(如来堂年前九時)

特別法要事務局だより



宝物館だよりとして、皆様に宝物館について色々発信していきますので宜しくお願い致します。

まず、宝物館について、皆様にお伝えする前に宝物館がどこにあるのかお伝えいたします。

皆様は宝物館がどこにあったかご存知でしょうか。

正解は上記の地図の丸で囲っている場所にございました。

そして宝物館のあった場所を取り壊して、新しい宝物館を建設いたします。

新宝物館の広さは約254坪（840㎡）になります。

これは約122坪であった旧宝物館の約2倍にあたります。



現在の宝物館の状況（令和3年11月現在）

こちらは、特別法要の御懇志を進納された方にお渡しするお扱いとして差し上げております。

それに併せて高田本山オリジナル線香「十八香」もお渡ししております。

「十八香」は阿弥陀仏の四十八願の中の第十八願（念仏往生の願）をモチーフに作成しており、厳かな香りが疲れた心に癒しを与えてくれます。また、5万円以上の御懇志を進納された方へ特別にお念珠を進呈しております。

男性用念珠には旧宝物館で使用されていた古材を再利用して作製されており、



線香と栞

解体にあたりまして、大切な法宝物が納められていた収蔵庫の壁面木材を利用して、栞を作成致しました。



企業並びに寺院向けに、長年にわたり宝物館を守ってきた瓦を護法瓦として、多額の御懇志を進納された方へ特別に進呈いたします。



女性用念珠



男性用念珠

女性用念珠と共にこの時しか手に入れることが出来ないオリジナルの念珠となっております。

ご進納時に男性用か女性用を選ぶことが出来ますのでお気軽にお伝えください。



新宝物館イメージ図

第1回
どのような願いで
この事業を始めたのか

宝物館建設について、まず挙げるのは以下の通りです。

- ・周知徹底 宝物館の知名度の向上
- ・安全確保 宝物館の老朽化
- ・災害対策 宝物館の災害などの備えの充実化
- ・教化拡大 法宝物を活用して真宗の教えを広める

高田本山の宝物館について、皆様はご存じでしょうか。

宝物館建設について話が出た際に、「宝物館はどこにあるんですか。」「宝物館はあったんですか。」「宝物館に何が納められているのか。」という問いかけを頂くことが多かったです。

限られた期間のみ宝物館を公開していたこともあり、あまり馴染みのない方が多いかもしれません。

そこで今回宝物館を建設することで認知度の増加が見込まれ、宝物館の魅力が

知ってもらえる良い機会になると考えております。



旧宝物館

宝物館は昭和37年（1962年）の宗祖七百回大遠忌の記念事業として建設されました。

当時の技術の粋が凝らされた宝物館でしたが、現在で60年ほど経過しており、老朽化が進んでおりました。

そのうえ、収蔵庫の空調設備は当時のままで、防火設備に不備（現在の水準では能力不足）がございました。

そこで、高田本山が大切に管理してきた法宝物を未来に受け継いでいくため、開山親鸞聖人八百五十年奉讃法会に合わせ宝物

館を建て替えることにいたしました。

また、新しく建設される宝物館は宝物を展示するだけではなく、「文化財活用室」（親鸞聖人が師と仰ぐ法然上人と出逢うきっかけとなった京都の六角堂をイメージした六角形の建物）を併設し、真宗の教えを目で見るだけの「見せる展示」ではなく、VR技術で体感できる「伝える展示」へと進化いたします。

そして、ゆくゆくは宝物館を公開承認施設として展開していけるように考えております。

ぜひ、完成の暁にはご自分の目で体感いただければ幸いです。

只今、特別法要事務局では宝物館建設にあたり、御懇志を受け付けております。

ご進納頂きましたすべての方のお名前を墨書して宝物館に奉納いたします。

また、2万円以上ご進納された方のお名前は宝物館の壁面に刻銘いたします。

永田文昌堂

いのちを見つめる紙芝居

定価22000円（税込）

- 全7話セット・ケース入
企画・仏の子を育てる会
絵・西口 誠 監修・谷出千代子
- ①おたんじょうびおめでとう
 - ②いのちをつぶさず
 - ③いただきます
 - ④ほおずき地蔵
 - ⑤山の子どんどん
 - ⑥ほうきのさとり
 - ⑦一個のアルミ缶
- （縦29.7cm×横42cm）

京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■TEL 075-371-6651 ■FAX 075-351-9031

自分史、句集、歌集、写真集、画集、エッセイなど…

本にしませんか？

編集
おまかせ
ください！

手書き
原稿OK！

予算に
応じた
ご提案

お見積り
無料！

「本を作ってみよう」というあなたの想いを、企画から制作・編集・校正、印刷、製本まで一貫して本づくりをサポートします。



印刷から情報価値創造企業へ

お気軽にお問い合わせください。

株式会社 **オリエンタル**

tel.059-245-3111(代)

こんな行事がありました

九月二十日～二十六日

読佛会

十月一日～三日

資堂講法会

十月二十九日

第二十六回教學院研究

発表大会

十一月三日・四日※

納骨堂法会

※納骨堂法会の受付は感染症対策の為、7日まで延長して執り行われました。

十一月五日～十日

秋法会

十二月八日～十日

中興上人御正當

十一月三・四日に納骨堂法会が厳修されました。納骨を御縁に、毎年たくさんのお同行様にお参りいただいております。

感染症対策として昨年同

※疾病の拡散防止のお願い

参詣の際や、行事等にご参加いただく場合には、引き続き感染防止対策にご協力ください。また、状況により各種行事が中止または内容が変更される場合もございます。



様受付期間を延長し、お参りいただく日も均等に割り振ってご案内いたしました。そのおかげで納骨堂法会並びに秋法会を厳修することができました。七日まで延長して受付しましたが、期間中は天気もよくコートの要らない日もありました。また、御影堂では大間に焼香台を設置してどなたでも法会に参加できました。

納骨堂法会につづき秋法会も厳修されました。秋法会はいわゆる本山の永代経として勤められます。表紙の写真は丁度そのお勤めの場面です。前卓の真ん中に置かれているのは過去帳で、秋法会に加入された方の施主名と住所、御縁の方の法名が順番に記帳してあります。永代経新加入の方の御対顔には今年もたくさんの方が参加されました。御対顔というのは、明治天皇の行在所である賜春館にて御法主からお言葉をいただくことです。また普段は入れない御影堂中陣にて法会に参列していただきます。コロナ禍の生活にも慣れてしまいましたが、この秋はたくさんの方にお参りいただききました。あらためて、人、法会、佛法に出遇うこととの大切さが身に浸みることでありました。

● 行事案内

一月一日～三日

修正会

一月九日～十六日

報恩講（お七夜）

期間中行事は

4・5ページ参照

二月二十六日～二十七日

住職補任研修会

二月十八日～二十四日

讀佛会

三月十九日～四月四日

写生大会

※感染症対策として予定を変更する場合があります。最新情報はホームページなどをご確認ください。

専修寺
YouTube
チャンネル

YouTube チャンネルを開設いたしました。ホームページのリンクからご覧ください。

寺院名

高田本山



三重県津市一身田町
2819
真宗高田派本山専修寺



ニュース情報番組 **ミエライズ**
毎週月～金曜日 17:40～生放送！
コメンテーターを交え、三重の今を深掘り！ニュース、スポーツ速報、旬な情報満載でお届けします。

- 旬感☆Mie 各市町情報
- キチキチキッチン 5分で簡単料理
- 三重の工芸 4Kで迫る匠の技 など

MTV 三重テレビ放送

エっとくんのLINEスタンプができたよ

LINEアプリ
⇒スタンプショップ
LINEストア
⇒クリエイターズ
どちらかで
Q 三重テレビ放送